

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報告書

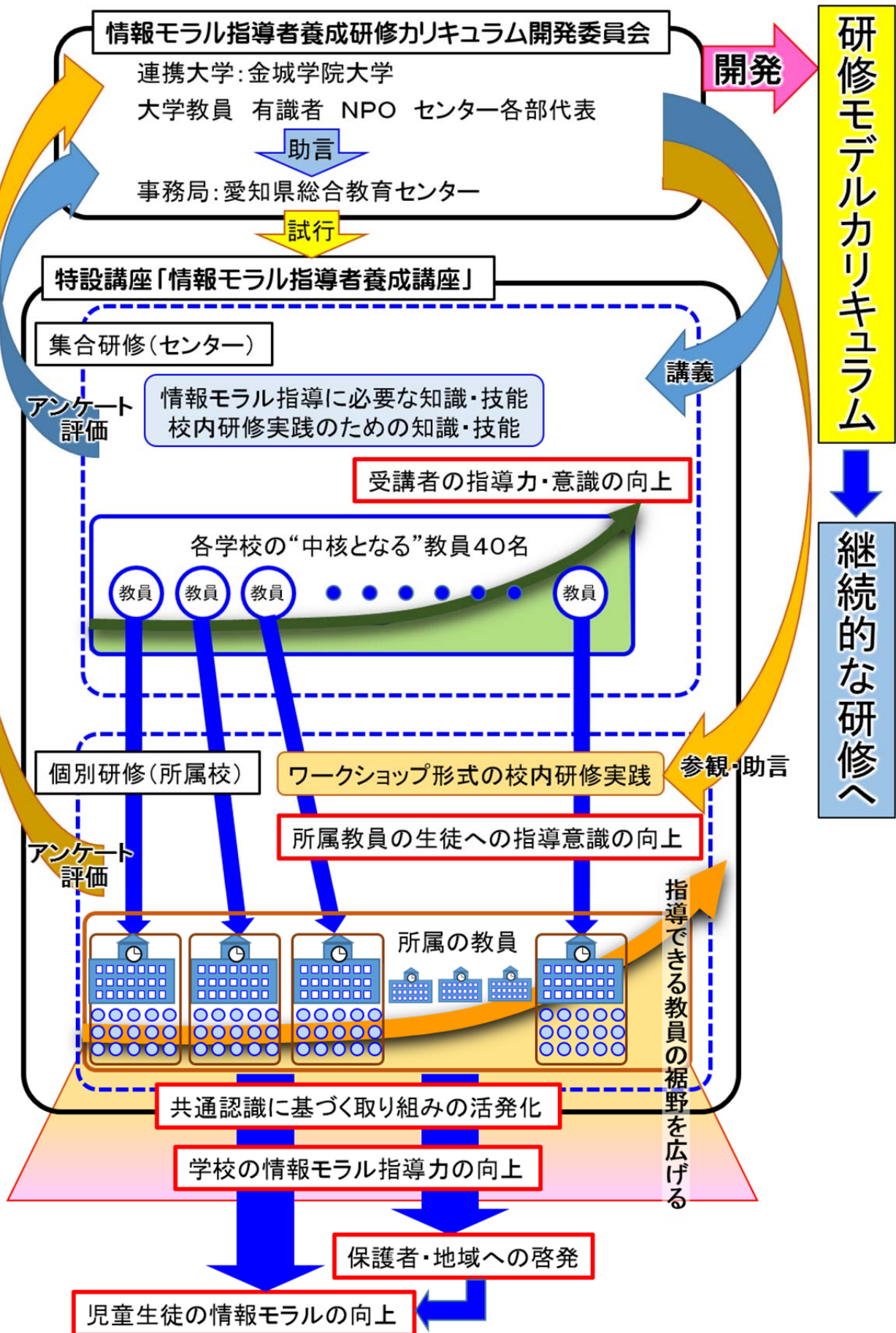
プログラム名	「トレンドを踏まえ、変化に対応できる情報モラル教育指導者養成のための研修カリキュラムの開発」
プログラムの特徴	<p>各学校の情報モラル指導の中核となり、校内での教員研修の講師を務めたり、最新の情報に基づいて同僚教員に助言をしたりすることができる人材の育成、児童生徒への指導はもとよりPTA研修会等の講師を務め、保護者への啓発を通じて地域の情報モラル教育を担う人材の育成を目的とした研修である。</p> <p>この研修カリキュラムは、三本の柱で構成する。</p> <p>【第一の柱】 校内研修運営のための知識・技能の習得 研修受講者自身が、所属校において「情報モラルに関する事例を基にしたワークショップ形式の校内研修」の講師を務め、所属校の教員の「情報モラル教育」に対する共通理解を形成するための効果的な校内研修の運営に関する知識・技能を習得させる。</p> <p>【第二の柱】 情報モラル指導のための知識・技能の習得 研修受講者が、児童生徒の指導や保護者への啓発、同僚教員への助言を行うため、トレンドを意識し、最新の情報に基づいた子どもたちのインターネット利用の現状と問題を把握し、教材コンテンツや指導資料を収集し、的確な指導・啓発、助言をするための知識・技能を習得させる。</p> <p>【第三の柱】 学校としての情報モラル指導力の向上 研修受講者が講師を務める校内研修を通して「情報モラル教育」に対する所属校の教員の共通理解を形成することで、学校としての指導力の向上につながる「全校体制による取組みの土台」を作る。</p> <p>初めての教員にも取り組み易いように、研修は具体的・実践的な内容になるように工夫した。これら三本の柱により、情報モラル指導の中核教員の育成と学校全体の指導力向上を図り、児童生徒の情報モラルを向上させる研修カリキュラムの開発を目指した。</p>

平成27年3月

機関名 愛知県総合教育センター

連絡先 愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾68

プログラムの全体概要



I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

今日、インターネット環境の整備と情報通信機器の発達により社会の情報化が急激に進展している。インターネットを利用したサービスも多様化し、私たちの社会生活においても必要不可欠なものとなっている。子どもたちにも携帯電話やスマートフォンが急速に普及し、子どもたちのインターネット利用にともなうトラブルが社会問題となっている。特に、スマートフォンはいつでも、どこでも利用できる小型のパソコンであり、スマートフォンの普及は、無料通信アプリを介したネットいじめや自殺、殺人、援助交際などの問題や、出会い系サイトの利用による被害など、子どもたちの生命に関わる問題も引き起こしている。変化の激しいインターネットのサービス内容や情報通信機器の新たな機能などに大人がついていけない状況であり、大人の目の届かないところで次々と起こる新たな問題や犯罪から子どもたちをどう守っていくかは、どこの学校でも大変苦慮しているのが現状である。

当センターでは「情報教育推進のための調査研究」（平成12年度から平成20年度）、「児童生徒の情報モラルの向上のための調査研究」（平成21年度から平成22年度）、「児童生徒の情報モラルの指導法に関する調査研究」（平成23年度より）において、児童生徒へのアンケート調査による実態把握と情報モラルの効果的な指導法について、大学と継続的に連携し研究するとともに、最新の情報を取り入れた内容で各種研修を実施してきた。教科「情報」担当者などの情報教育を専門的に扱う教員はもちろんのこと、各校種の初任者研修や10年経験者研修等の集合研修において、これまで多くの教員に対して情報モラルに関する研修を行った。さらに、県立学校の情報化推進者及びネットワーク担当者に対しては、校内研修実施に役立つ資料の提供も行ってきた。

しかし、学校では、次々と登場する新しいインターネットのサービスや脅威に対する指導に苦慮し、専門的な知識を有する外部講師による指導を望む声が多く、当センターへも学年・全校集会や保護者研修会、校内研修などの講師派遣依頼が年々増加している。入学時や新年度の始め、長期休業前など、子どもたちに対する指導で学校から依頼される時期も重なることが多く、限られた人数の所員では対応しきれない状況であり、各学校で中核となって情報モラルの指導ができる教員の育成が急務となっている。

そこで、当センターでは、従来実施してきた各種研修における情報モラル指導に関する研修の充実と継続を図るとともに、新たな研修カリキュラムの開発に取り組んだ。

この研修では、インターネットのトレンドを把握し、最新の情報に基づいて子どもたちの指導や保護者への啓発を行い、また同僚教員の情報モラル指導について助言できる各学校における中核教員を養成する。これにより学校としての情報モラル指導力の向上を図る。

2 開発の方法

当研修カリキュラム開発プログラムは、金城学院大学と愛知県総合教育センターが連携し、学識経験者、NPO及び当センター所員で構成する連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」の評価及び助言に基づいて、試行、改善し開発する。なお、研修の試行にあたっては、年度当初に新規研修講座を開設することは難しいため、既存の「県立学校情報化推進研修」（2日間）をベースに、所属校が希望する受講者について、集合研修1日と個別研修1日を課す形で、特設講座「情報モラル指導者養成講座」（4日間）を併設して実施した。

研修モデルカリキュラムは、次の5つの方策によって開発を行った。

- 1 これまで実施してきた情報モラル教育に関する研修の内容とアンケート結果を分析し、受講者が求める研修内容を検討する。
- 2 当試行研修、授業、校内研修等で活用できる教材の開発及び、インターネット上の既存コンテンツ等の調査を行う。
- 3 試行研修、特設講座「情報モラル指導者養成講座」を実施し、その成果を検証する。
- 4 試行研修の受講者に対する、事前、事後及び追跡調査によって研修内容を評価し、改善を図る。
- 5 情報モラルに関する指導法や最新情報を収集・検討する。

これらを総合して連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」による評価を得て、研修カリキュラムの具体的内容に盛り込むべき要件を明らかにする。

(1) 事前打ち合わせ及びセンター所員研修等

日 時 平成26年4月3日(木) 14:30~16:30

会 場 愛知県総合教育センター(システム開発室)

内 容 研修カリキュラム・コンテンツ開発小委員のセンター所員
・過年度情報モラル関連研修受講者アンケートの分析
・研修モデルカリキュラム開発のための試行講座における研修内容の検討

日 時 平成26年5月9日(金) 13:30~15:00

会 場 愛知県総合教育センター(システム開発室)

内 容 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 柴田好章 准教授
・ワークショップの手法に関するセンター所員研修

日 時 平成26年11月21日(金) 13:00~16:30

会 場 愛知県総合教育センター(システム開発室)

内 容 愛知県総合教育センター研究発表会
「第6部会情報教育」の発表後半において、情報モラル指導者養成のための「教員研修モデルカリキュラム開発」中間報告を実施

(2) 「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」

第1回 連絡協議会

日 時 平成26年5月26日(月) 14:30~16:30

会 場 愛知県総合教育センター(第1会議室)

内 容 ・事業説明及び「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」設置の経緯の報告
・年間事業計画について検討
・児童生徒のインターネット利用に係る諸問題及び情報モラル指導者に必要とされる知識・技術等について意見交換

第2回 連絡協議会

日 時 平成26年10月27日(月) 14:00~16:00

場 所 金城学院大学(N2号館108教室)

内 容 ・試行特設講座「情報モラル指導者養成講座」の実施状況報告
・校内研修実施状況及び研修成果の報告
・研修カリキュラム及び研修教材等に関する評価

第3回 連絡協議会

日 時 平成27年2月16日(月) 14:00~16:30

会 場 金城学院大学(栄サテライトキャンパス)

内 容 ・特設講座「情報モラル指導者養成講座」事前・事後アンケート及び受講者追跡アンケートの分析結果より、実施研修カリキュラムの評価
・情報モラル教育に関する訪問調査の報告と研修モデルカリキュラムへの反映について検討
・「情報モラル指導者養成研修モデルカリキュラム」の提案

(3) 「研修カリキュラム・コンテンツ開発小委員会」

第1回 協議会

日 時 平成26年7月11日(金) 9:30~16:00

会 場 愛知県総合教育センター(システム開発室)

助言者 金城学院大学 国際情報学部 長谷川元洋 教授

内 容 ・第1日目研修教材の評価
・センター所員制作情報モラル指導パワーポイント教材に対する評価及び指導
・第3日目校内研修参観時の指導内容の検討

第2回 協議会

日時 平成26年9月3日(水) 15:00~17:30
会場 愛知県総合教育センター(システム開発室)
内容 ・第1日目、第2日目研修カリキュラムの評価
・第4日目研修カリキュラムの検討
・研修用教材の検討及び制作

第3回 協議会

日時 平成26年10月1日(水) 10:00~14:00
会場 愛知県総合教育センター(システム開発室)
内容 ・校内研修実施状況の確認
・研修カリキュラムの検討
・研修教材の制作
・情報モラル最新情報の収集及び研修資料制作

第4回 協議会

日時 平成26年11月5日(水) 9:30~12:00
会場 愛知県総合教育センター(システム開発室)
内容 ・第4日目研修カリキュラムの検討
・研修教材の制作
・第4日目研修に向けた研修運営の確認

第5回 協議会

日時 平成27年1月9日(金) 14:00~16:00
会場 愛知県総合教育センター(システム開発室)
助言者 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 柴田好章 准教授
内容 ・情報モラル指導教材の作成について
・eラーニング教材の作成について
・研修モデルカリキュラム提案のための原案検討

(4) カリキュラム開発のための調査

日時 平成26年9月10日(水)
会場等 豊川市立金谷中学校(愛知)
内容 中学校道徳における情報モラル教育の授業実践参観
インターネット上の既存コンテンツを活用したグループワークを中心とする授業実践の参観

日時 平成26年11月27日(木)
会場等 福島県教育センター
内容 情報モラル教育におけるインターネット・リテラシー指標(I L A S)の活用と研修後の実践
状況調査による効果測定の有効性について

日時 平成26年11月28日(金)
会場等 岩手県立総合教育センター
内容 情報モラル教育のためのコンテンツの自主制作とシステムをパッケージ化して活用する教員研
修及び出前授業の実践について

日時 平成26年12月15日(月)
会場等 愛知県立岡崎西高等学校
内容 新任教員と2年目教員のチームで創る情報モラルの授業実践の参観

- 日 時 平成26年12月21日(日)
 会場等 三重県総合文化センター(三重県)
 内 容 三重県教育工学研究会において
 NHK学校放送番組を活用した情報モラルの授業展開事例及び指導案(略案)作成演習により
 情報収集
- 日 時 平成27年1月15日(木)
 会場等 揖斐川町立揖斐小学校(岐阜県)
 内 容 小学校におけるICTを活用した情報モラルの授業実践の参観
- 日 時 平成27年2月9日(月)
 会場等 アクトシティ浜松(静岡)
 内 容 静岡大学名誉教授 阿部圭一氏より
 情報メディアとの上手な付き合い方、児童生徒によるルールづくりの要点、情報モラル用教材
 を活用した授業実践及びネット依存等について聴取
- 日 時 平成27年2月10日(火)
 会場等 東京大学本郷キャンパス(東京)
 内 容 東京大学大学院情報学環教授 橋元良明氏より
 「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」の結果から見える日本のネット依存
 の傾向「きずな依存」の特徴と教員研修において周知すべきこと等について聴取
- 日 時 平成27年2月23日(月)
 会場等 刈谷市総合文化センターアイリス(愛知)
 内 容 平成26年度第2回あいち人権講座「ネット被害から子どもを守る」において
 全国webカウンセリング協議会理事 安川雅史氏より
 インターネットの利用に伴い発生している子どもたちを巻き込んだトラブルの具体的事例と
 その顛末、子どもたちからの相談への対応方法等について情報収集
- 日 時 平成27年2月24日(火)
 会場等 札幌市立平岡中学校(北海道)
 内 容 「開校30周年記念平岡中学校実践発表会」において
 当事業連携大学、金城学院大学長谷川元洋教授の提唱する「予防教育」、「未然防止教育」、「事
 後指導・再発防止教育」の「三層構造情報モラル教育アプローチ」の概念に基づき、学校とP
 TAが連携して取り組んできた9年間の実践の成果と取組方法について情報収集
- 日 時 平成27年3月7日(金)、8日(土)
 会場等 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
 内 容 様々な教育の場面におけるICTの活用についての提案や実践報告と「ネット社会の歩き方」
 を利用した情報モラル指導力養成のための校内研修の具体的な方法について情報収集

3 開発組織

(1) 情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会

所属・職名	氏名	担当・役割	備考
愛知県総合教育センター所長	杉浦慶一郎	委員長：評価	連携事業代表
金城学院大学国際情報学部長	小野知洋	副委員長：評価	連携事業大学担当
金城学院大学国際情報学教授	長谷川元洋	委員：分析、評価	
群馬大学名誉教授	下田博次	委員：評価	連携事業統括
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科准教授	柴田好章	委員：分析、評価	
NPO法人 青少年メディア研究協会理事	下田真理子	委員：評価	連携事業統括
愛知県総合教育センター 情報教育部長	大谷宜生	委員：分析、評価	
研究部研究指導主事	近藤哲史	委員：校内研修参観、評価	
研修部研究指導主事	関友彦	委員：校内研修参観、評価	
相談部研究指導主事	奥田 優	委員：校内研修参観、評価	

(2) 研修カリキュラム・コンテンツ開発小委員会

所属・職名	氏名	担当・役割
金城学院大学国際情報学教授	長谷川元洋	指導・助言
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科准教授	柴田好章	指導・助言
愛知県総合教育センター 情報教育部 情報システム研究室長	小山真臣	カリキュラム及び教材コンテンツ開発主務
研究指導主事	井谷直樹	カリキュラム及び教材コンテンツ開発
研究指導主事	岩月迅美	カリキュラム及び教材コンテンツ開発
研究指導主事	片山雅貴	カリキュラム及び教材コンテンツ開発
研究指導主事	山下智之	カリキュラム及び教材コンテンツ開発

(3) 情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会事務局

所属・職名	氏名	担当・役割	備考
愛知県総合教育センター 総務部企画管理課長	堀場正弘	連絡・調整	教育センター・大学連携推進事務局
情報教育部 情報システム研究室長	小山真臣	連絡・調整	連携事業総合教育センター担当 特設講座主務
研究指導主事	井谷直樹	連携協議会主務	
研究指導主事	岩月迅美	庶務	
研究指導主事	片山雅貴	庶務	
研究指導主事	山下智之	庶務	

II 開発の実際とその成果

ここでは、初めに研修モデルカリキュラム開発のための試行研修として実施した「特設講座『情報モラル指導者養成講座』」の成果について報告し、後に試行研修の評価に基づいて開発した研修モデルカリキュラムを提案する。

1 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の取組（試行）について

(1) 「情報モラル」に関するこれまでの研修に対する評価

当センターでは、各校種の初任者研修や10年経験者研修等の集合研修などの受講者の多い研修では、子どもたちのインターネット利用の現状と問題点について具体的な事例を挙げて紹介し、各教科科目における指導の重要性について講義形式で実施してきた。また、県立学校の情報化推進者及びネットワーク担当者を対象とする職務研修「県立学校情報化推進研修」では、受講者が校内研修を実施したり、コーディネートしたりすることができるように、校内研修で配布する資料と講義者用解説資料の提供も行った。さらに、校内研修の進め方を、一部実習を交えて受講者約180名を6回に分けて実施してきた。

モデルカリキュラムの開発にあたっては、各学校の中核教員の育成とともに校内研修の実施によって情報モラルを指導できる教員の裾野を広げることを重視した。そこで、校内研修実施を前提とした研修である「県立学校情報化推進研修」の平成24年度及び平成25年度受講者アンケートの結果を再度評価し、参考とした。「県立学校情報化推進研修」では、ICTの活用推進や、校務の情報化に関する内容など盛りだくさんのため、情報モラルに関する研修は2日間の研修のうち平成24年度は120分、平成25年度は70分だけであったが、研修に対する評価では「よい」「ほぼよい」を合わせた回答は、平成24年度は85.4%、平成25年度は94.9%であった。研修内容に対する記述による回答は、

「具体的な内容でネットの危険について理解できた」

「参考になるサイトを多く知ることができた」

「資料が分かり易く、少し加工すれば学校でもすぐに使える」

「(研修の)スライドが分かり易かった。そのまま校内研修で使いたい」

など、評価が高かった。しかし、一部に

「校内研修を立案・実施する余裕がない」

「いかに時間を作り、生徒、教員の意識を向上するのが問題」

「資料スライドを共有させて欲しい」

「生徒に指導するためには、すべての先生に講義して欲しい」

「内容はいいけど、伝達するのは・・・」

というような、実際に校内研修を計画し、実施することに対する時間的な余裕がなかったり、不安を感じたりしている回答や、そのまま使える教材の提供、すべての教員への研修機会の保障などの要望もみられた。

過去の研修アンケートから、次の条件を取り入れた研修カリキュラムの開発を行うこととした。

- 具体的な事例に基づく講義
- 授業や研修などで簡単に利用できる資料、教材コンテンツの紹介
- 多忙な担当者の校内研修の準備、実践の負担軽減のため、そのまま利用できる研修教材の提供
- 確実に校内研修を計画、実施できる仕組みづくり

(2) 特設講座の開講と受講者募集

当研修モデルカリキュラムの開発にあたっては、試行のための研修講座を開講する必要がある。しかし、前年度末に全県の公立小中学校（一部市立を除く）及び県立学校へ当センターより通知した研修講座一覧にない研修講座を開講することになるため、学校の負担が最も少なくなるように既存研修に組み入れる形とした。研修の内容が情報モラル指導者の養成にも関連し、また情報モラルに関する内容に重点を置くことに問題のない「県立学校情報化推進研修」2日間に、集合研修1日と所属校における個別研修1日を追加して実施することとなった。これを受けて4月の県立学校校長会を通して、全県立学校に案内を送付し、受講者の募集を行った。

- 講座名 特設講座「情報モラル指導者養成講座」
- 対象 県立高等学校及び県立特別支援学校の教員40名（学校が受講を希望する者）
- 期間 4日（うち2日は既存研修「県立学校情報化推進研修」の内容を含む）
- 会場 総合教育センター2日、金城学院大学1日、各所属校1日

なお、募集締め切り日までに学校より希望のあった40名を受講者として決定した。この40名は、既存の「県立学校情報化推進研修」の受講を予定していた情報化推進者及びネットワーク担当者に加え、教務部、生徒指導部の先生など、今後各学校で情報モラル教育の中心として期待される教員である。

(3) 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の実施（試行）

特設講座の母体となる「県立学校情報化推進研修」2日間の研修は、60名程度の3班編成で地区ごとに日程を指定して実施するため、特設講座受講者40名も地区別に3班に分割されて実施した。

A班 16名（6/18、7/1、校内研修期間、10/17）

B班 9名（6/20、7/1、校内研修期間、10/24）

C班 15名（6/25、7/1、校内研修期間、10/28）※ 下線は「県立学校情報化推進研修」実施日
研修内容は次の通りである。

ア 事前研修

eラーニング「情報モラル」の視聴（講師：金城学院大学長谷川元洋教授）約30分

研修内容及び日程		配布資料
事前研修		
期 間	特設講座「情報モラル指導者養成講座」研修内容	情報化推進研修
5月22日 ～研修1日目	<事前学習> eラーニング「情報モラル」の視聴	

○ ねらい

情報モラル教育に関する概略の理解と受講者の研修に対する事前の意識付けを行う。

○ 内 容

情報教育の一環である情報モラル教育について、学習指導要領の内容を踏まえ、発達の段階に応じた情報モラル教育の必要性や教員が身に付けるべき知識、校内の指導体制確立の重要性、また家庭・地域との連携について全般的な知識を学ぶ。

※ 愛知県内の公立幼稚園（こども園）、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校（名古屋市立を除く。）の教職員のみ利用可。

イ 第1日集合研修（愛知県総合教育センター）

研修講座の母体となる「県立学校情報化推進研修」の研修内容の一部について、情報モラルに重点を置いた別メニューで実施した。ここでは、「特設講座『情報モラル指導者養成講座』」に関する研修内容について報告する（配布資料の太字該当）。

1日目 集合研修 (愛知県総合教育センター) 平成26年6月18日(水)、20日(金)、25日(水)		
日 程	特設講座「情報モラル指導者養成講座」研修内容	情報化推進研修
9:00	受付 (本館4階:大講義室前)	
9:30	オリエンテーション	
9:40	講義 「ICT活用推進と情報モラル教育」 【講師 金城学院大学 長谷川元洋 教授】	
	講義 「ICT活用の実践報告」 講師 高等学校 教諭	
11:45	休憩	
12:45	演習 「ワークショップ形式で実施する情報モラル校内研修の体験」 講師 総合教育センター研究指導主事 【指導助言 名古屋大学大学院 柴田好章 准教授】	/
16:20	講義 「情報モラル指導のポイント」 講師 総合教育センター研究指導主事	
16:30	研修の振り返り 諸連絡	

(ア) 演習「ワークショップ形式で実施する情報モラル校内研修の体験」(130分)

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事 【指導助言 名古屋大学大学院 柴田好章 准教授】
運営補助 2名 (研究指導主事)

○ ねらい

受講者の各所属校において、受講者自身が講師となって「情報モラルに関する校内研修」を実施できるようにする。また、校内研修の実施によって、各学校の情報モラル指導に対する共通理解を図り、学校全体で情報モラル指導に取り組む姿勢をつくる。

○ 内 容

90分の校内研修を基本として設定し、子どもたちのインターネット利用に伴う最新の問題事例を基に、グループで問題点や望ましい変容、必要な指導についてワークショップ形式で付箋紙と模造紙を用いて話し合う。グループごとの話し合いの成果は、模造紙にまとめポスターセッションによって全体で共有する。子どもたちのインターネット利用に伴う問題点と指導の必要性及び指導の内容など、「情報モラル指導」について共通理解を図る。

○ 実施上の留意事項

- ・90分の校内研修を実際に体験しながら、研修の進め方を学べるようにする。
- ・当研修で用いたプレゼンテーションスライド、配布資料、シナリオテキストをそのまま使って校内研修を実施できるようにする。
- ・すべての研修教材を受講者に提供することを伝え、負担感の軽減を図る。
- ・研修のまとめ方のポイントを押さえる。

特設講座「情報モラル指導者養成講座」の研修内容の初めにこの内容を実施することで、新たな情報が与えられていない学校の先生の立場で研修に参加し、どのような声掛けが必要か、どこで補足説明が必要かなどを考えることができるようにした。また、それぞれの学校の状況に合わせて、60分で実施する手順についても、プレゼンテーションスライドやシナリオテキストを用意して紹介した。

また、ワークショップ形式による研修のため、「ただ話をして終わった」という感覚を参加者に持たせないために、校内研修の最後のまとめ方を示すことが大切であることを伝えた。

なお、集合研修中の全てのワークショップを同一のメンバーで実施することで、受講者の同僚性とモチベーションを高めることにつながる。

(イ) 講義「情報モラル指導のポイント」(70分)

○ 講師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名(研究指導主事)

○ ねらい

インターネットの普及とともに生じている問題や変化する子どもたちの人間関係など、情報モラル指導者として必要となる基礎知識を習得する。

○ 内容

インターネット普及の社会的な動きと子どもたちの携帯電話やスマートフォン利用に伴って生じているネットいじめや安易な個人情報掲載によるトラブル、不適切動画画像・書き込みによる炎上問題、ネット依存などについて具体的な事例を挙げて紹介する。

交友関係の広域化、善悪や危険に対する判断など子どもたちの現状について理解し、インターネット安全指導の在り方を考える。

また、誰にでもできる「情報モラル指導」(日常のモラル)と専門的な立場から行う「情報モラル指導」(情報技術の特性の理解)の役割分担により、「すべての教員にできることがある」ことを理解し、校内研修におけるまとめに結びつける。

○ 実施上の留意事項

最新の具体的な情報とともに、その背景にある社会の状況や子どもたちの心の変化などについても考えることで、表面的な事象からその根源となる部分を見極め、適切な対応や指導に役立てる。

校内研修時に配布する資料について、解説をするための基礎知識を納得して理解できるように、するためにも分かり易い表現で伝える。

ウ 第2日集合研修(金城学院大学)

試行研修の母体となる「県立学校情報化推進研修」とは別に研修日を設定した。午後の講演会については、特設講座受講者40名の他、全県立高等学校及び特別支援学校にも公開し、106名が参加した。

2日目 集合研修(金城学院大学) 平成26年7月1日(火)		情報化推進研修
日程	特設講座「情報モラル指導者養成講座」研修内容	
9:00	受付(N1棟前)	
9:30	講義・演習 「ワークショップの運営手法」 (N1棟601教室) 【講師 名古屋大学大学院 柴田好章 准教授】	
11:00	演習 「校内研修実施計画の作成」 講師 総合教育センター研究指導主事	
	施設見学	
12:00	休憩	
13:00	情報モラル講演会 (N1棟リリーハーモニー) 【挨拶 愛知県総合教育センター 杉浦慶一郎 所長】 【挨拶 金城学院大学国際情報学部長 小野知洋 教授】	
	講演Ⅰ 「考えよう子どものモバイル・ネット問題」 【講師 群馬大学名誉教授 下田博次 氏、 NPOメディア研究協会 下田真理子 理事】	
	講演Ⅱ 「ネットいじめ」を防ぐために保護者・教員が出来ること」 【講師 山形大学基盤教育院 加納寛子 准教授】	
	講演Ⅲ 「情報モラル教育の推進と校内研修(実践事例を踏まえて)」 【講師 金城学院大学 長谷川元洋 教授】	
16:20	研修の振り返り	
16:30	諸連絡	

(ア) 講義・演習「ワークショップの運営方法」(90分)

○ 講師

名古屋大学大学院 柴田好章 准教授
運営補助 2名(研究指導主事)

○ ねらい

受講者が、個別研修において実施する参加型校内研修であるワークショップに期待される効果と手法について理論的に理解する。

○ 内容

参加型ワークショップの学びの特質について、「学ぶとは」「教えるとは」という基本的な概念の確認から、「学びの価値」や「学びを促進する条件」について考える。また、参加型ワークショップを教員研修や授業に生かすためのポイントについて解説し、さらに「情報モラル指導者養成講座」においてワークショップを用いることで「情報モラル」というテーマで、学校内外において教員に「できること」と「できないこと」、「他との連携の必要なこと」など構造的に考える必要性について講義した。

○ 実施上の留意事項

校内研修の運営方法には様々な形態があり、研修内容によって最も効果的な方法を選択することが必要であること。また、ワークショップが教員研修だけではなく、授業においても言語活動の充実を図るアクティブラーニングの手立てとしても有効であり、様々な場面で活用できることなど、第1日目に実施した「ワークショップ形式で実施する情報モラル校内研修の体験」を理論的に考察するとともに、随所に簡易的なワークショップを取り入れて、受講者自身にも考えさせ、理解できるようにする。

(イ) 演習「校内研修実施計画の作成」(60分)

○ 講師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 2名(研究指導主事)

○ ねらい

校内研修実施のための資料及び運営方法を確認し、所属校で実施する校内研修を構想する。

○ 内容

校内研修で用いるプレゼンテーションスライド、配布資料、シナリオテキスト等をまとめて保存したDVDを受講者へ配布し、プレゼンテーションの動作及びインターネット利用に伴うトラブルの「配布用事例」等の内容確認を行う。受講者それぞれがプレゼンテーションを実際に操作し、シナリオテキストを読みながら利用する事例を検討することで、受講者各自が実施する校内研修について構想を練る。研修で利用する模造紙、付箋紙等の必要物品の確認を行う。

○ 実施上の留意事項

ワークショップの効果と手法について理解した後に、受講者40名に対して校内研修実践資料及び物品を配布し、内容確認する。ここで、校内研修準備の負担が比較的軽いという印象を与えると同時に、受講者全員が同じ道具を基に校内研修を実践するという思いを共有し、モチベーションを高めるようにする。

(ウ) 講演「情報モラル講演会」(120分)

○ ねらい

子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルの予防と、情報モラル教育を学校全体で取り組むために必要な考え方を学ぶ。

○ 内 容

講演Ⅰ 「考えよう子どものモバイル・ネット問題」

講師 群馬大学名誉教授 下田博次 氏、NPOメディア研究協会 下田真理子 理事
携帯電話でインターネットが利用できるようになってから、現在子どもたちに起きている様々な問題やメディアの在り方、また自己責任と言われるインターネットの世界で子どもたちを被害者、加害者しないために必要なこと、保護者の責任であるペアレンタルコントロールなどについて講演。

講演Ⅱ 「ネットいじめ」を防ぐために保護者・教員が出来ること」

講師 山形大学基盤教育院 加納寛子 准教授
現在のネットいじめについて具体的な事例を挙げて、その背景や対応について考察、エンターテインメント化するインターネットを舞台とするいじめの怖さや、SNSなどから発せられる子どもたちの SOS の早期発見がいじめを完治させる決め手であることなどについて講演。

講演Ⅲ 「情報モラル教育の推進と校内研修（実践事例を踏まえて）」

講師 金城学院大学 長谷川元洋 教授
情報モラルに関する校内研修の具体的な事例を挙げ、あらかじめトラブル対応についてシミュレーションしておくことの重要性と、情報モラル教育を、「予防教育」、「未然防止教育」、「事後指導・再発防止教育」による三層構造考える必要性などについて講演。

○ 実施上の留意事項

研修全体を通して、総合教育センター所員の講義だけではなく、専門的な立場からの示唆と最新情報の提供を図ることで、研修全体の妥当性を確保する必要がある。そのためには大学等の高等教育機関との連携が不可欠である。日程等により困難な場合は、センター所員が直接大学教員等から最新情報を収集したり、eラーニング等の教材化したりして受講者に情報を提供できるようにする必要がある。

エ 第3日個別研修（各所属校）

3日目 個別研修（各所属校）		
期 間	特設講座「情報モラル指導者養成講座」研修内容	情報化推進研修
7月31日～ 10月23日	<校内研修> 情報モラルに関するワークショップ形式の校内研修 40校すべての校内研修を総合教育センター研究指導主事が参観・助言 うち10校について大学教員による参観・指導 金城学院大学 長谷川元洋 教授 5校 名古屋大学大学院 柴田好章 准教授 5校	

実習「情報モラルに関するワークショップ形式の校内研修」（90分または60分）

○ 講 師

特設講座「情報モラル指導者養成講座」の受講者（各所属校において）
参観・指導・助言 総合教育センター研究指導主事及び一部大学教員

○ 校内研修参加人数

「情報モラル指導者養成講座」受講者の所属校40校の教員 計1,342名

○ ねらい

受講者の所属校の教員が、子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルの原因や背景、子どもたちや保護者、社会のあるべき姿、教員の関わり方などについて共通理解を図り、学校全体で情報モラル指導に取り組む姿勢をつくる。

情報モラル指導の中核となる40人の教員養成から、情報モラルの指導ができる教員を所属校の全ての教員へ広げる。

○ 内 容

「情報モラル指導者養成講座」の受講者が講師となって、ワークショップ形式の校内研修を実施する。子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルの最新事例を基に、付箋紙に問題点を記入し、模造紙に貼る。次に「あるべき姿」（生徒、家庭、学校、社会など）について付箋紙に記入して話し合う。さらに、「あるべき姿」に導くために、学校として何ができるか、またどのように家庭と連携するかなどを考え、模造紙にまとめる。最後に、ポスターセッションを行い情報モラル指導についての考え方を教員全員で共有する。

○ 実施上の留意事項

- ・ 「情報モラル指導者養成講座」の成否を分ける研修である。
- ・ 子どもたちのインターネット利用に伴う諸問題について、校内研修に参加するすべての教員が意見を述べることで、お互いの考え方や指導に方向性をもたせるようにする。
- ・ グループでの話し合いは、必ず一人ずつ意見を述べてから、その意見を簡単にまとめて付箋紙に記入し、模造紙に貼るようにする。これにより、全員が意見をしっかりと述べる機会をつくる。
- ・ ワークショップのそれぞれの作業時間管理を行うが、話し合いが活発に行われている場合は、適宜時間調整を行う。
- ・ 充実した話し合いとワークショップのまとめの時間を確保するためにも、90分の研修時間が必要となる。
- ・ 「子どもたちのインターネット利用に伴う問題事例」は、異なる内容で複数用意する。各グループで異なる事例を基に話し合った「必要な指導」が、他の事例から導き出された「必要な指導」と共通することが多いことに気付けるようにする。
- ・ ワークショップで得られた成果、つまり「共通した気付き」をしっかりとまとめることが重要である。確認する時間をとれない場合は、研修参加者から「ただ話し合っただけ」という感想が多く寄せられることになる。
- ・ まとめでは、ワークショップから情報モラルの指導は、インターネットや情報通信機器の特性に関する技術的な指導と道徳観や規範意識など日常のモラルに関わる子どもたちの心の成長を促す指導に大別でき、心の成長に関する指導はすべての教員が日頃の指導の中で実施できることに気付けたかを確認させる。
- ・ 専門的な技術に関する指導と日常のモラルに関する指導は、教科や職務上の役割により分担して実施する。ただし、書き込みや画像などの情報が拡散したり、削除できなかつたりするなどのインターネットの基本的な特性についてはすべての教員が、それぞれの教育活動のなかで機会を捉えて、様々な場面で頻繁に指導する必要性について伝えさせる。
- ・ 特設講座受講者の負担軽減と各学校で行われる校内研修の質及び成果を一定に保つために、研修に用いるプレゼンテーションや資料等の研修教材をパッケージ化して提供する。

オ 第4日集合研修（愛知県総合教育センター）

4日目 集合研修（愛知県総合教育センター）平成26年10月17日（金）、24日（金）、28日（火）		
日 程	特設講座「情報モラル指導者養成講座」研修内容	情報化推進研修
9:00	受付（第1・2情報実習室前）	
9:30	講義・実習 「～学校情報セキュリティ～」 講師 総合教育センター研究指導主事	
11:00	講義・実習 「生徒のインターネット利用状況の把握」 講師 総合教育センター研究指導主事	
12:00	休憩	
13:00	実践報告 「情報モラル校内研修を実施して」 報告者 特設講座受講者 全員	
14:25	講義 「情報モラルの指導法」 講師 総合教育センター研究指導主事 研究協議 「よりよい校内研修の実施を目指して」 ～情報モラル教育指導者の裾野を広げるために～ 講師 総合教育センター研究指導主事	/
16:20	研修の振り返り	
16:30	諸連絡	

(ア) 講義・実習 「生徒のインターネット利用状況の把握」（60分）

この研修は「県立学校情報化推進講座」の内容として実施したため、「県立学校情報化推進講座」受講者が簡易的な校内研修を実施することを想定している。

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名（研究指導主事）

○ ねらい

子どもたちのインターネットの利用に関する最新情報の入手方法や、自校の生徒のインターネット利用状況の見守り方を習得する。

○ 内 容

最新の「青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」（内閣府）のデータを提示し、全国の子どもたちのインターネット利用状況を把握するとともに、トラブルの具体的な事例を示してスマートフォンのフィルタリングの重要性を理解する。また、ニュースなどから入手した事例を所属の教員に周知するとともに、生徒に示す時の表現の配慮について理解する。

その後、職員室やコンピュータ室での簡単な校内研修を想定し、インターネットの検索サイトを活用した、自校生徒のインターネット利用の状況についての見守り方を、キーワード検索のポイントを中心に、実際にインターネットを利用して実習する。

○ 実施上の留意事項

校内研修では、興味本位に生徒の書き込みや掲載画像を見るのではなく、危険な使い方をしていないか、危険に巻き込まれていないかを確認することが大切であり、「見守る」気持ちで臨むことが重要であることを伝える。

また、何か問題を発見した場合は、速やかに管理職を含めたチームでの対応を心がけ、一人で対応することの危険性を伝える必要がある。

(イ) 実践報告 「情報モラル校内研修を実施して」（70分）

この研修は「情報モラル指導者養成講座」受講者を各日A班16名を3つ、B班9名を2つ、C班15名を3つに分け、「県立学校情報化推進講座」の「校内研修実践報告」として実施した。

○ 講 師

「情報モラル指導者養成講座」受講者（計40名）

○ ねらい

「情報モラルに関するワークショップ形式の校内研修」の実践報告を聞き各学校の今後の情報モラル指導に関する取組を、自校の取組の参考とする。また、情報モラル指導及び校内研修に関する問題点を共有し、その後の研究協議の資料とする。なお、「県立学校情報化推進講座」の受講者は、ワークショップの有効性を理解し、校内研修の手法の一つとして検討させる。

○ 内 容

「情報モラル指導者養成講座」受講者がそれぞれの所属校で実践した校内研修の様子や成果、問題点などについて報告し、これに対して質疑応答する。

○ 実施上の留意事項

- ・ 報告は各自10分程度とし、発表方法は各自に任せる。
- ・ 当センターの今年度の試行のように、他の研修に含めて行う場合は、今回の校内研修の主旨を他の研修受講者にも十分説明した上で、実施するように配慮する必要がある。
- ・ 報告会後の研究協議につなげるため、研究協議のグループを意識した報告者の班分けをした。

(ウ) 講義 「情報モラルの指導法」(35分)

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名(研究指導主事)

○ ねらい

インターネット利用に関する日頃の指導のポイントを理解する。

○ 内 容

実際に子どもたちが巻き込まれたインターネット利用に伴う具体的なトラブルの事例を基に、日頃から必要な指導と効果的な教材コンテンツを紹介する。

なお、本来は(ア)の「生徒のインターネット利用状況の把握」と併せて実施するものであるが、本年度の当試行研修の運営上時間を分けて実施した。

○ 実施上の留意事項

実際に教材コンテンツのサイトにアクセスし、どのような授業利用が可能か受講者が考える時間をつくるのが大切である。

(エ) 研究協議 「よりよい校内研修の実施を目指して」(80分)

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名(研究指導主事)

○ ねらい

学校全体で情報モラル指導に取り組む体制をつくるために、何をすべきかを考えることで、分掌、学年、教科を超えて一つの組織としての学校を意識し、学校の中核としての指導者意識をもたせる。

○ 内 容

各学校で実践した校内研修の問題点について、グループでワークショップを行い、改善・解決への方策を付箋紙用いて検討し、模造紙にまとめて発表する。

○ 実施上の留意事項

- ・ 校内研修の活性化を図る上での問題点を共有し、受講者が互いに方策について意見を交わすことで、学校を一つの組織として考え、情報モラル指導の中核としての自身の立場を意識させる。

(オ) 研修の振り返り (10分)

○ 講師

総合教育センター研究指導主事

○ ねらい

受講者が各学校の情報モラル指導の中核となり、今後の指導に積極的に取り組む意識をもたせる。

○ 内容

研修全体の流れを振り返り、受講者の指導力と意識の変化を確認させる。

○ 実施上の留意事項

- ・ 研修に参加したことで、各受講者がどのように変化したか考えさせる。
- ・ 研修講師として、校内研修実施時の様子や受講者の変化を伝える。
- ・ 校内研修の実践によって、受講者の情報モラル指導の中核教員としての自信につながると同時に学校の全ての教員から情報モラルの指導者として認識されたことを伝え、今後も積極的に情報モラル指導の中核として他の教員へ助言をし、学校全体の指導力の向上を図るように要請する。

2 特設講座「情報モラル指導者養成講座」の取組(試行)の評価

「情報モラル指導者養成講座」の受講者に対する「事前・事後アンケート」、所属校の教員に対する「校内研修アンケート」、及び「追跡アンケート」から、当研修の成果について連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」で検討、評価した。

(1) 事前・事後アンケートの比較による研修評価

受講者自身に関する質問では、「生徒のインターネット利用の現状やサービスの内容をだいたい理解している」(図1)という項目では、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答は、事前の40%から事後は80%に増加した。

「情報モラル指導のための各種資料を収集することができる」

(図2)という項目については、「とてもできる」「だいたいできる」を合わせた回答が50%から85%に増加した。

「情報モラル指導のための教材を作成することができる」(図3)では、「とてもできる」「だいたいできる」を合わせた回答が40%から72.5%に増えている。

講座の1日目の「情報モラル指導のポイント」及び4日目に「生徒のインターネット利用状況の把握」と「情報モラルの指導法」の講義、実習を行ったが、事後アンケートについては、4日目終了時のアンケートであるため、1日目の講義及び2日目の講演会、さらに校内研修の実践を通じて、意識の変化とともに自ら積極的に取り組み始めたといえる。

「生徒への情報モラルの指導を自

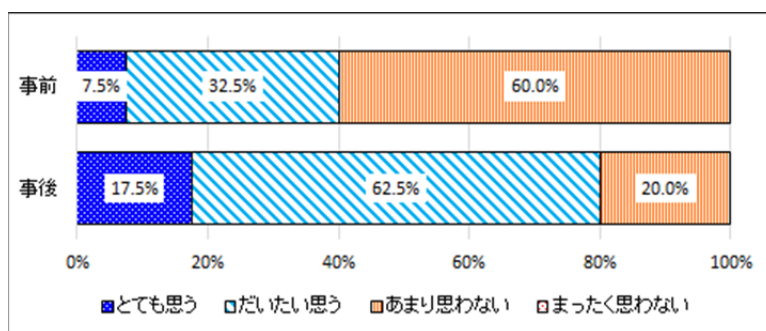


図1 私は生徒のインターネット利用の現状やサービスの内容をだいたい理解している

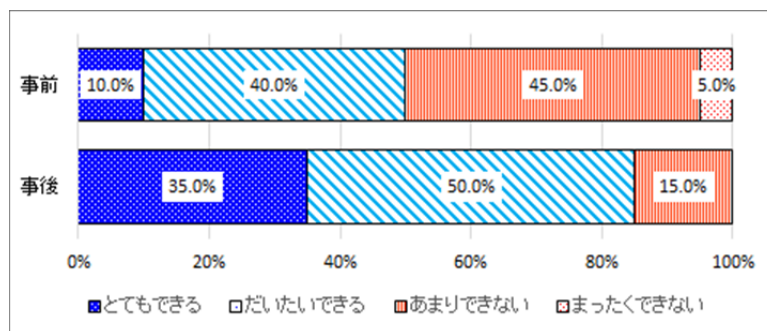
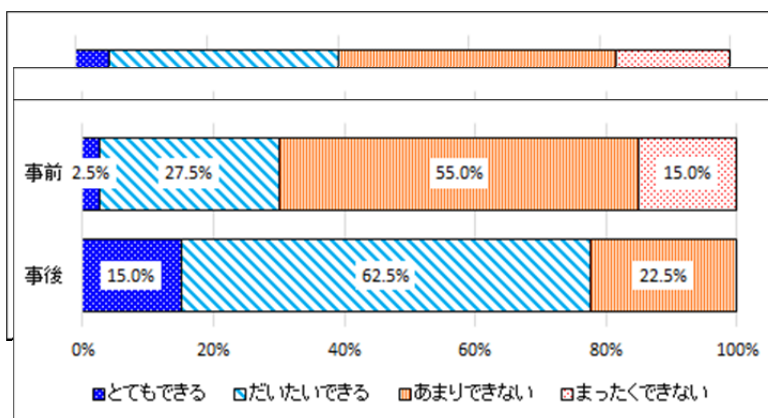


図2 私は情報モラル指導のための各種資料を収集することができる



自信を基に実践し情報モラルの啓発をすることができる

信を持って実践している」(図4)という項目では、「とてもできる」「だいたいできる」を合わせた回答が22.5%から80%に、また「保護者に情報モラルの啓発をすることができる」(図5)という項目でも、「とてもできる」「だいたいできる」を合わせた回答が30%から77.5%になっており、自信がついてきたこともうかがえる。

「同僚教員に情報モラルの指導用教材や指導方法について積極的に指導・助言できる」(図6)という項目も「とてもできる」「だいたいできる」を合わせた回答が事前の15%から77.5%へ増加した。情報モラル指導の中核教員として成長していることを示す数値と言えるが、まだ約2割の受講者が不安を持っており、当研修の更なる改善が必要であることも認識された。

しかしながら、全ての受講者が「情報モラル指導者養成の必要性は必要だ」(図7)と感じており、4日間の研修を通して指導者養成の必要性が再認識されたことが分かる。

次に、受講者の所属校の教員についての質問の「情報モラル指導を行う必要性を校内の多くの教員が感じている」(図8)という項目では、

「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答が事前の72.5%から60%に低下している。これについては、学校で校内研修の参加を呼びかけたときにさまざまな業務と重なり、校内研修に参加する人数が少なかったり、当日になって欠席者がいたりして、残念だったという受講者からの声があった。当研修の受講に意欲的であった受講者にとって、同じ意識だと思っていた所属校の教員の校内研修への参加状況から、「所属校の教員は情報モラルの指導を行う必要性を感じていないのではないか」と意識の差を感じる要因になったと考えられる。

しかし、校内研修後である研修4日目終了時に行った事後アンケートでは、「情報モラルの指導を校内の多くの教員が取り組んでいる」(図9)という項目では、「だいたい思う」がわずかながら増加し、「全く思わない」が減少したことは、所属校の様子が変わる兆しが少し見えたのではないかと考えられる。いずれにしても、夏休みから10月にかけて校内研修を実施して間もないこともあり、校内研修で共通理解を図った後に、どのように指導に取り組むかは今後のそれぞれの学校の大きな課題といえる。

なお、この研修によって受講者が「目指した目標を達成できたか」(図10)という項目では、「十分に達成できた」「ほぼ達成できた」を合わせた回答が85%であった。

「あまり達成できなかった」という

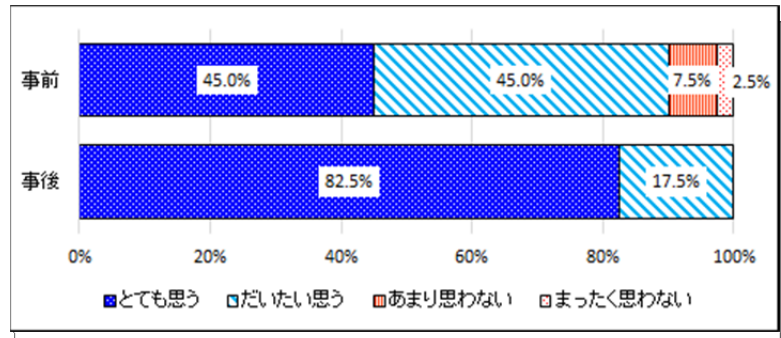


図7 私には情報モラルの指導者の養成は必要だと感じている
図6 私は同僚教員に情報モラルの指導用教材や指導方法等について、積極的に指導・助言できる

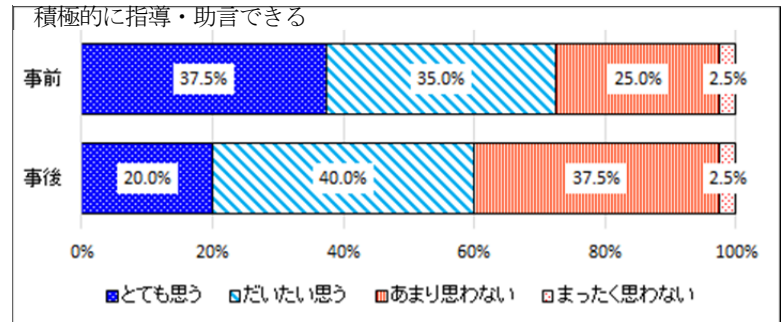


図8 生徒への情報モラルの指導を行う必要性を校内の多くの教員が感じている

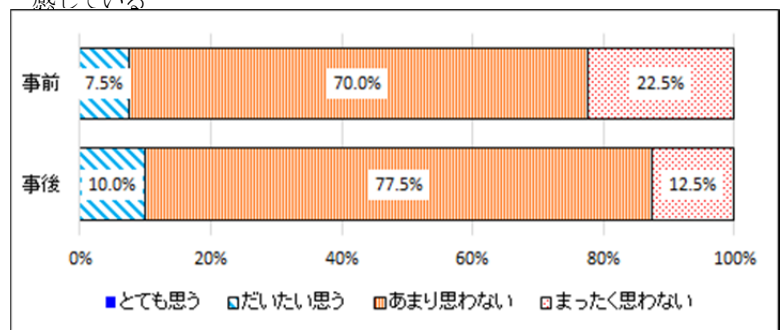


図9 生徒への情報モラルの指導を校内の多くの教員が取り組んでいる

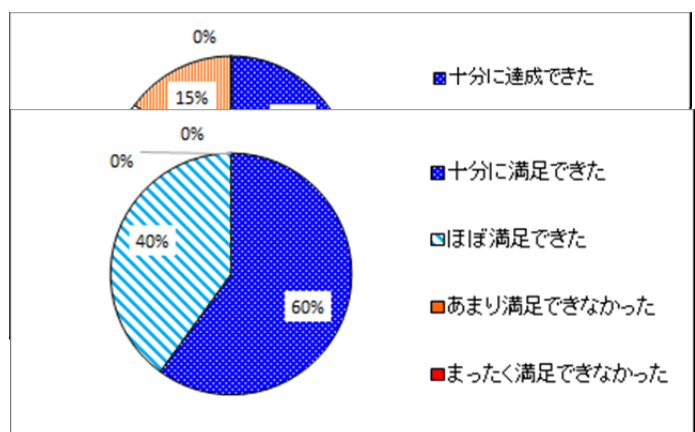


図11 満足度

15%（6人）の受講者の理由は、「まだ少し指導者として不安が残る」という理由が多い。また、「もう少し実際に起きている問題事例を取り上げて欲しかった」という意見もあり、この点も改善を要する。

この研修に対する満足度（図11）については、全ての受講者から満足を得られた。満足した理由として記述された主な内容は以下の通りである。

- ・ワークショップの方法や有効性を学び、体験できた。
- ・ワークショップ形式の研修は初めてであったが、他者の様々な視点・考え方を知ることができた。
- ・ワークショップ形式の研修によって問題点に自分達で気付き、考えを共有できた。
- ・研修をすることで自分や参加された先生の全員がレベルアップすることができたことに満足できた。
- ・自分の知らなかった知識を知ることができた。
- ・校内研修について実施する自信がついた。
- ・生徒の指導や問題にどう対処すれば良いかだけでなく、保護者向けや学校全体の取組を年間で考えられるところまでできた。
- ・自分自身、目を向けられなかった情報モラルについて、指導できるという自信が持てるようになった。

(2) 校内研修参加者アンケートによる研修評価

校内研修に参加した教員へのアンケート結果から、次のような評価を行った。なお、有効回答数は、「情報モラル指導者養成講座」受講者の所属校40校の教員計1,342名のうち1,229である。

「情報モラルのワークショップで他の先生方の考えが分かってよかったと思う」(図12)という項目では、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答は95%

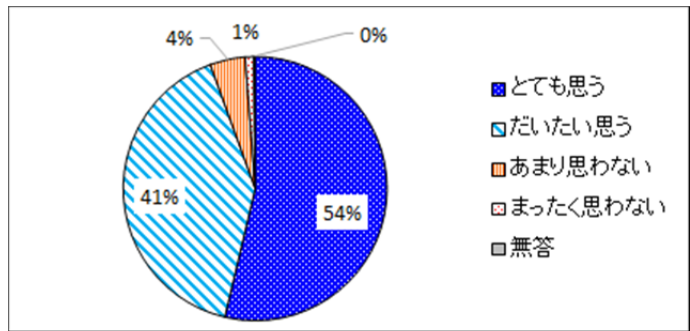


図12 情報モラルのワークショップで他の先生方の考えが分かってよかったと思う

であり、また「情報モラルのワークショップで情報モラル指導の共通理解ができたと思う」(図13)という項目では、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答は91%であった。多くの教員が互いの考え方をすることで、情報モラルを指導することへの不安や疑問を共有し、その上で考え方の共通項を基に情報モラル指導に対する共通理解を図ることができたと言える。

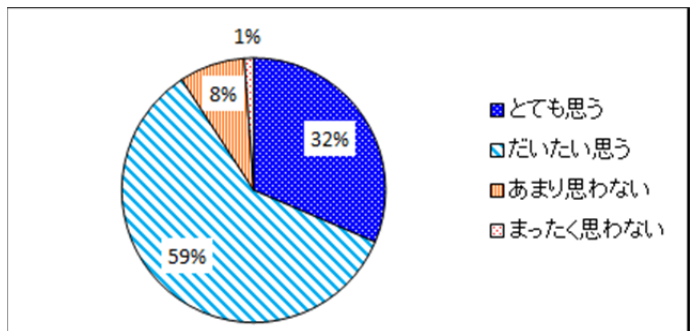


図13 情報モラルのワークショップで情報モラル指導の共通理解ができたと思う

「情報モラルのうち、日頃の道徳、マナー、規範意識の育成について指導しようと思う」(図14)という項目については、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答は94%であった。

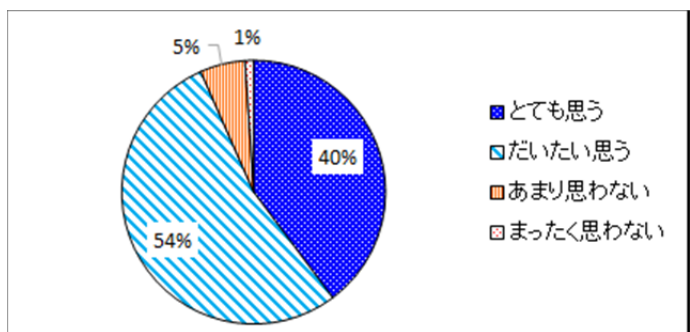


図14 情報モラルのうち日頃の道徳、マナー、規範意識の育成について指導しようと思う

また、「情報モラルのうち、情報機器やインターネットの特性について指導しようと思う」(図15)という項目については、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答は77%であった。情報モラル指導のうち道徳、マナー、規範意識の育成といった日頃の指導の範疇で行えることは積極的に取り組む姿勢を示す一方で、専門的な内容を含む情報機器やインターネットの特性などの指導については、やや躊躇してしまう傾向がみられる。情報機器やインターネットの特性などの基礎的な内容については、全ての教員が指導できるよう、他の研修も含めて改善する必要がある。

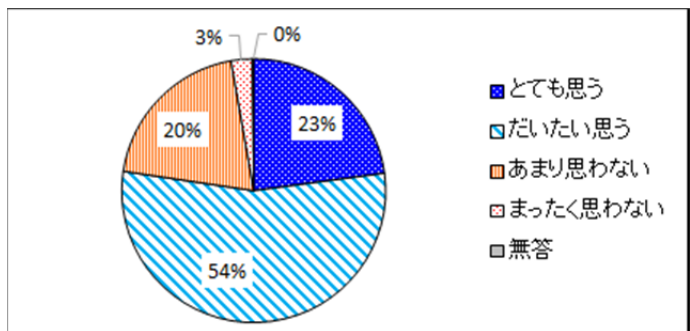


図15 情報モラルのうち情報機器やインターネットの特性について指導しようと思う

最後に、「今回の研修で、情報モラル指導に対する意識が高まったと思う」(図16)という項目については、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答が89%であった。

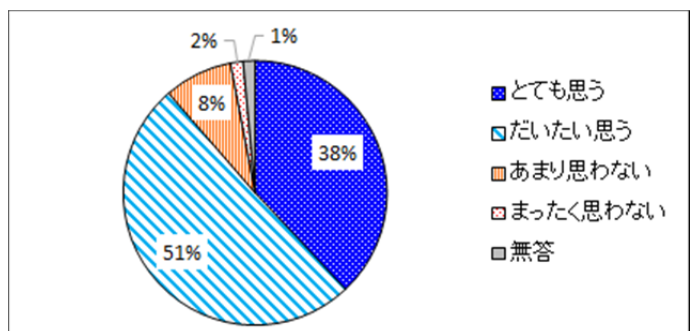


図16 今回の研修で、情報モラル指導に対する意識が高まったと思う

もともと、情報モラルの指導をしていた教員にとっては意識の変化は少なかったと思われるが、この校内研修に参加したことで、多くの教員の情報モラル指導に対する

る意識が高まったと言える。

これらのことから、このワークショップ形式の校内研修の目的である、所属校の教員の情報モラルに関する共通理解を図り、学校全体で情報モラル指導に取り組む姿勢をつくることができた」と評価した。

校内研修に参加した教員の感想の主な内容は以下の通りである。

- ・皆で意見を出し合えば、様々な解決法・指導法があることが分かった。
- ・学校で指導していくことや、学校生活での充実が影響してくるのだと感じました。
- ・情報モラルの中の多くは、日頃からのマナー・道徳教育と重なる部分であることがよく分かった。
- ・こういうミーティングは時々やると良い。有意義でした。
- ・様々な分野の先生方の意見が聞けてよかった。
- ・情報モラル教育も日頃からのマナー教育、モラル(道徳)教育であることが分かった。【多数】
- ・スマホ・インターネットなどの指導の難しさを痛感しました(道徳指導の一つであり、いつまでも残ることが恐ろしい)。
- ・先生方と共通理解ができた。
- ・情報モラルについて、生徒の目線で考えることができた。
- ・話を聞くだけより良い、一方通行ではなく自分で考えられた。【多数】
- ・時間が足りずに中途半端かな？(その分一所懸命考えることができた)。

また、校内研修の講師を務めた当研修受講者が「校内研修実践報告書」に記述した感想の主なものは、以下の通りである。

- ・ワークショップ形式で校内研修を行ったことで、教員が主体的に考え、さらに全体で意見を共有することができた。
- ・普段は情報モラルについてあまり考えてこなかった先生方が自分でもできるかもしれないという意識をもてたことは非常に大きな一歩だと思う。この機会を大切に、今後につなげていきたいと思う。
- ・年代の違う先生方の話を聞くことで新たな発見や驚きがあったという意見が多かった。これは情報モラルの研修に関わらずワークショップ形式で行った効果だと思う。
- ・うまくできるか心配であったが、教員集団は積極的に意見を言う人が多いので各グループともに活発な議論が交わされた。講義形式の研修よりも参加者の意識は確実に高まったと感じた。

ワークショップ形式で行った校内研修の効果がうかがわれる感想が多かったなかで、次のような課題も記述されていた。

- ・60分の研修では各グループの発表する時間が無く、それぞれの事例に対する指導方針を全員で確認することが出来なかった。
- ・ワークショップにおいて発言しやすい雰囲気を作るために、さらに工夫すべきだった。今後は、各教科や日常の指導の中で、どう実践につなげていくのが課題である。
- ・研修直後の意識の高まりを継続、定着させるために、これからの日常生活で折に触れ働きかけていくことが必要であると思いました。

ワークショップを行う上での時間管理の問題については、今回は各学校の業務の状況に合わせて90分を基本形とする研修手順とともに、60分の研修も選択できるようにした。60分で研修を計画した学校では、実際には教員の話合いに熱が入り、途中で区切ることができず時間を超過したり、時間に合わせて終了するためにまとめが上手くできず参加者から中途半端だとの指摘を受けたりした研修もあった。したがって、当研修の受講を希望する学校に、できる限り90分で研修を実施するように働きかける必要がある。

連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」では、校内研修で高まった情報モラル指導に対する意識を継続し、定着させるためにも、具体的な日常の指導や各教科での指導の方法について当研修の受講者を通じ、さらには、その他の研修においても伝えることができるよう研修内容の充実を図ることが必要であると指摘された。

(3) 追跡アンケートによる研修評価

「情報モラル指導者養成講座」受講者40名に対して研修終了から3か月後に追跡調査のためのアンケートを実施した。現在までに回答があった38名の状況は以下の通りである。

初めに、受講者自身に対する質問では、「私は同僚教員に情報モラルの指導用教材や指導方法等について、積極的に指導・助言をするようになった。」(図17)という項目については、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答が63%、また「特設講座をきっかけに、自身で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか。」(図18)という項目については、「ある」とする回答が71%となっている。

次に、受講者の所属校の状況は、「校内研修実施後、生徒への情報モラルの指導に教員が取り組み始めた。」(図19)という項目については、「だいたい思う」とする回答は47%、「校内研修実施後、生徒への情報モラルの指導について、教員が話題にする機会が増えた。」(図20)という項目については、「とても思う」「だいたい思う」を合わせた回答が74%となっている。「校内研修をきっかけに学校全体で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか。」(図21)という項目については、「ある」とする回答が34%であった。

「情報モラル指導者養成講座」の終了及び「校内研修」実施から3か月程度しか経過していないため、新たな取組にまでは、まだまだ結びついてはいないが、受講者の他の教員への指導や助言の機会が増えたことや、校内での情報モラルに関する話題の増加などから、情報モラル教育の広がりを感じとることができる。次年度以降の「情報モラル指導者養成講座」受講者及びその所属校の活動に注目したい。

また、校内研修で用いたワークショップの手法を、情報モラル以外の授業に取り入れたり、学校経営のための職員のコンセンサスを得るためや、学年会議、その他の校内での研修に取り入れたりする学校もあり、「情報モラル指導者養成講座」が校内研修の活性化や授業改善にもつながっていることが、追跡調査の記述

から明確となった
(図22)。

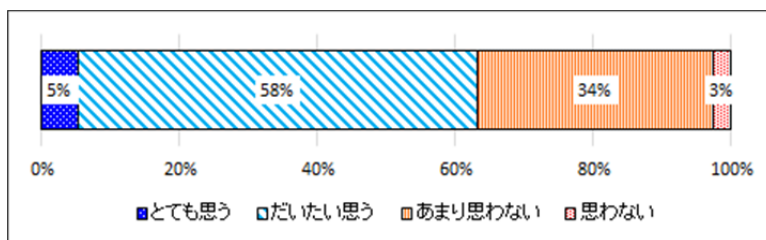


図17 私は同僚教員に情報モラルの指導用教材や指導方法等について、積極的に指導・助言をするようになった。

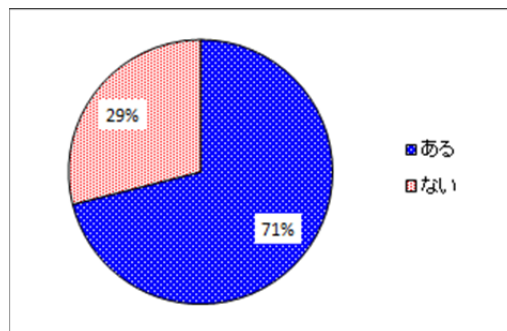


図18 自身で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか。

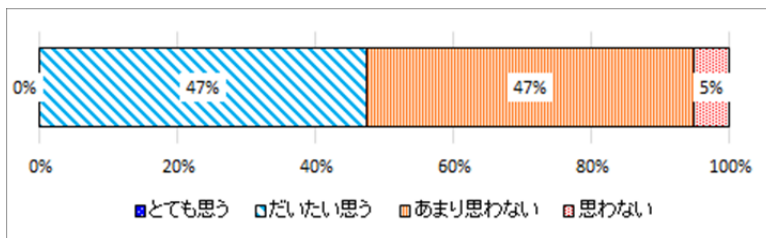


図19 校内研修実施後、生徒への情報モラルの指導に教員が取り組み始めた。

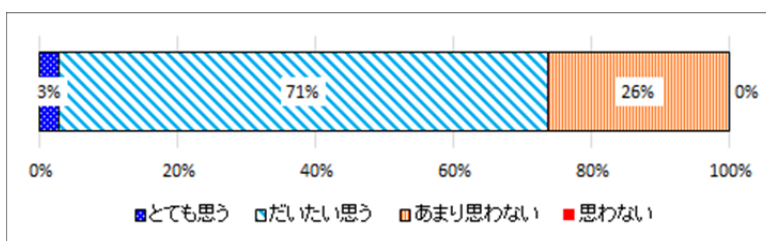


図20 校内研修実施後、生徒への情報モラルの指導について、教員が話題にする機会が増えた。

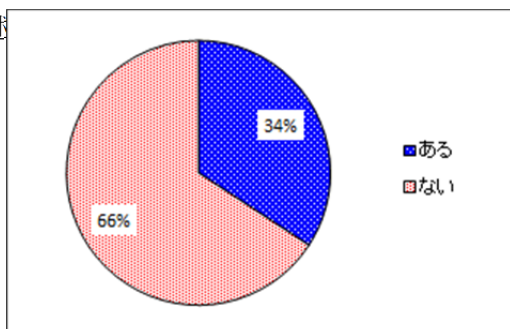


図21 学校全体で情報モラルに関して新たに取り組んだことはありますか。

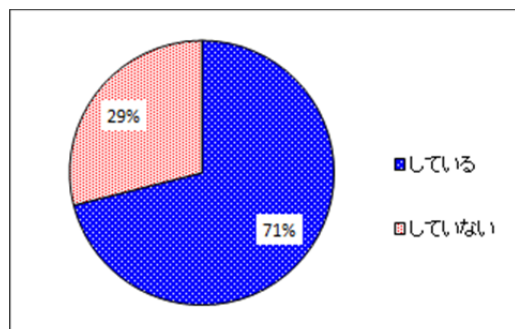


図22 特設講座で学んだことが、その後の教育活動において活用されていますか。

(4) 連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」による全体評価

第3回連携協議会では、試行研修4日間、「研修カリキュラム・コンテンツ開発小委員会」及びこれまでの連携協議会で、検討開発してきた研修モデルカリキュラムを提案した（「3 情報モラル指導者養成のための研修モデルカリキュラムの提案」参照）。試行研修では、他の研修を母体としたため4日間で実施したが、モデルカリキュラムは2日の集合研修と1日の個別研修（所属における校内研修）及びeラーニングの視聴で構成した。集合研修2日目の午後には、試行研修の反省から新たな研修内容を追加した。委員からは、情報モラル教育に必要な内容がしっかり取り込まれており、また試行研修の成果も継承できると評価されたが、特に新たな研修内容及び情報モラル研修自体について、さらに充実させるために指摘された視点は以下の通りである。

- ・「情報モラル指導案（略案）作成」では受講者が作成した指導案を共有し、互いのヒントになるようにするとよい。受講者に指導案の共有の可否について意思表示できるようにすることも必要である。
- ・今までは、事件やトラブルについて目を向けることが多かったが、NPOのアンケート調査ではネット依存が非常に多くなっている。病的な依存への対策をカリキュラムの中に取り入れていかないと手遅れになるのではないか。
- ・今後はモバイルインターネットのリスクとしてネット依存の問題を真剣に受け止める必要がある。
- ・現在の情報モラル教育は、問題が起きて、それを何とかする、いわゆる管理する内容が多い。これからは、「問題を起こしたくない」という考えを子どもたちにもたせ、自ら考え判断する力を付け、問題が起きにくい環境づくりに着手する必要がある。
- ・インターネット・リテラシー指標（ILAS）のカテゴリー分けのほとんどが○と×で応えられる中で「情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる能力」だけが○と×では答えられない問題である。答えのない問題にどのように対応していくかという本人の判断力を付けることが課題である。
- ・現在行われている情報モラル教育は、情報モラル教育の「第一歩」である。10年後にどのような教育が行われているか。この先、別の視点で考えていかななくてはならないことがたくさんある。このモデルカリキュラムによって、その視点で考えることができるようになると、さらに次の段階に進んでいくだろう。
- ・情報を見抜く力は時間を掛けて身に付く能力である。自立し、冷静に考える力を付けるためにも国語や数学、理科の授業など、学校教育の教科のなかで行うことが大事なところである。
- ・情報モラルの問題は、一般的な価値観や道徳、規範などに関わるところと、現在の情報のメディアやインターネットがもつ特性の部分に関わるところの両面から指導することが大切。ちょうどその真ん中に位置すること、情報メディアが出てきたからこそ注目される、これまでも必要とされてきた能力や態度や知識などのうち、試されている部分がある。それがコミュニケーション能力や論理的に考える力である。情報の教員だけが指導すればよいものではなく、すべての教科の教員が関わっていくところである。
- ・ネットの中での人間関係のトラブルというものは、対面する関係でも起きている。思った以上に人を傷つけたり、思った以上に傷ついてしまったりするのがネットの特性。そのようなことも含めて、すべての教科の先生で考えていくべきものである。

これらの視点を基に、更にモデルカリキュラムを検討した。

3 情報モラル指導者養成のための研修モデルカリキュラムの提案

愛知県総合教育センターが平成26年度に試行した特設講座「情報モラル指導者養成講座」の成果を検証し、連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」で検討した「情報モラル指導者養成のための研修モデルカリキュラム」を提案する。

(1) 情報モラル指導者養成のための研修モデルカリキュラム

～トレンドを踏まえ、変化に対応できる情報モラル教育指導者養成～

愛知県総合教育センター

1 研修日程

- 個別研修 1 所属校 eラーニング「情報モラル」の視聴（事前研修）
- 集合研修 1 愛知県総合教育センター
- 個別研修 2 所属校 eラーニング「効果的なワークショップの方法」講座の視聴（課題研修）
- 個別研修 3 所属校 校内研修実践
- 集合研修 2 愛知県総合教育センター

2 対象及び人数

小学校と中学校、高等学校と特別支援学校

1班30名程度（小学校とその他の校種は授業における指導内容に違いがあるため、同時開催時は小中学校で1班、高等学校及び特別支援学校で1班の編成が必要となる）

3 研修内容

事前研修 eラーニング「情報モラル」

<第1日目>

場所：教育センター

日程：夏季休業前

	研修内容	研修方法
～09：30	受付	
09：30～	オリエンテーション	「研修のねらい」の確認、諸連絡、アンケート
09：35～ 12：00 (135分 +休憩10分)	演習・講義（講義室）（120分） 「子どもたちのインターネット利用を考える」 ～ワークショップ形式で行う校内研修（運営マニュアル）～ 講義（15分） 「学校全体で行う情報モラル教育」	【ワークショップによる協議】 子どもたちのインターネット利用に伴う諸問題の本質と指導について、参加者がワークショップ形式で協議するとともに、校内研修を運営するうえで留意するポイントについて講義する。 90分で行う校内研修（60分で行う校内研修） 【プレゼンテーションによる講義】 演習の結果を踏まえ、学校全体で情報モラル教育に取り組む意義について講義する。
12：00～ 13：00	休憩及び準備	
13：00～ 15：00 (120分)	講義（コンピュータ実習室） 「子どもたちのネット利用の現状」	【プレゼンテーションによる講義】 情報化の進展の歴史、情報化社会の光と影やネット依存などの体と心の問題など、子どもたちのインターネット利用の現状について講義する。
15：10～ 15：40 (30分)	実習（コンピュータ実習室） 「ネットの見守り」	【インターネットによる見守り】 自校児童生徒のインターネット利用状況について、実際に人気サイトを確認し、子どもたちのインターネット利用を見守る方法を学ぶ。
15：40～ 16：20 (40分)	講義（コンピュータ実習室） 「情報モラル指導に役立つサイト」	【インターネットによるサイト確認】 児童生徒の指導や保護者への啓発に役立つ教材及び資料が掲載されているサイトを確認する。
16：20～ 16：30	研修の振り返り 諸連絡	

事後研修 eラーニング「効果的なワークショップの方法」

<第2日目>

場所：所属校

日程：第1日目終了から第3日目までの間、「90分の校内研修」（学校の実情に合わせて60分版も用意するが、できる限り90分を推奨する）を行う。

「校内研修参加者アンケート実施」

センター所員の業務と調整し、可能な限り研修参観及び助言を行う。

<第3日目>

場所：教育センター

日程：夏季休業後～冬季休業前

	研修内容	研修方法
～09：30	受付	
09：30～ 10：30 (60分)	研究協議（講義室A、B） 「校内研修実施の成果と課題」	【発表】 校内研修の実施状況、実施した感想について発表し、研修の成果と課題、解決の方策について協議する。 1グループ5人（発表一人5分、協議25分、 報告各グループ2分×4班）
10：40～ 12：00 (80分)	講義（講義室A） 「情報モラル指導のポイント」	【プレゼンテーションによる講義】 情報モラル指導モデルカリキュラムを指導計画の基本として、各教科・科目、ホームルーム、その他の学校活動全体を通じた情報モラル指導のポイントについて講義する。
12：00～ 13：00	休憩及び準備	
13：00～ 15：00 (120分)	演習（コンピュータ実習室） 「情報モラル指導案（略案）作成」	【指導案（略案）作成の演習】 情報モラルに関する授業（教科・科目又はホームルーム、あるいは分掌）についての指導案（略案）を作成し、協議する。
15：10～ 15：50 (40分)	講義（コンピュータ実習室） 「インターネット関連法とトラブル対応」	【プレゼンテーションによる講義】 インターネット利用に関連する法令の確認、トラブルへの対応方法及び関係機関との連携について講義する。
15：50～ 16：20 (30分)	講義（コンピュータ実習室） 「学校と家庭の連携」	【プレゼンテーションによる講義】 学校と家庭の連携による児童生徒の情報モラルの向上について講義する。
16：20～ 16：30	研修のまとめと振り返り 諸連絡	アンケート

4 評価

研修受講者：

事前アンケート、事後アンケートにより、情報モラル教育の実践に対する意識及び行動の変化について評価する。

校内研修参加者：

校内研修実施後アンケートにより、情報モラルに関する意識の変化、ワークショップ形式の校内研修の効果について評価する。

受講者、学校の変容：

追跡アンケートにより、意識の継続、取組状況について評価する。

(2) モデルカリキュラムの提案に際して追加した研修について

連携協議会「情報モラル指導者養成研修カリキュラム開発委員会」から与えられた視点と試行研修受講者の意見により、モデルカリキュラム第3日目の午後に追加した新たな研修内容について紹介する。

なお、試行研修第2日目の「ワークショップの運営方法」は、事後研修eラーニングで対応し、講演会については、モデルカリキュラム全体を通してその内容を網羅するようにした。

(ア) 演習（コンピュータ実習室）「情報モラル指導案（略案）作成」（120分）

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名（研究指導主事）

○ ねらい

情報モラルに関する指導を各教科・科目の授業やホームルームなどに、どのように取り入れたらよいか理解し、実践する力を身に付けるとともに、同僚教員に対して助言できるようにする。

○ 内 容

「情報モラル指導のポイント」で示した、各教科・科目の指導ポイントを基に、インターネット上の既存コンテンツを、実際の授業にどのように取り入れるかを具体的に示す。受講者が各自の教科の指導と関わる情報モラルの指導内容を文部科学省が体系的に分類した「情報モラル指導モデルカリキュラム」表から選び、既存コンテンツを使って、授業の流れを考え、発問や指導のポイント、予測される児童生徒の反応などを簡易的な指導案にまとめる。最後に、グループで発表し、意見交換をして改善を図る。

○ 実施上の留意事項

- ・各教科・科目の指導では、最も取り入れ易い「著作権」や「コミュニケーション」に関わる内容を例にとり、各校種に合わせた具体的な授業展開を示す必要がある。
- ・授業での指導例として、愛知エースネットの「情報モラル授業実践報告」及び「情報モラルちょっと授業実践報告」などを紹介する。
- ・作成した指導案（略案）は、データ化して共有することで所属の同僚教員への助言のための資料とする。なお、作成者の意思表示のための「共有の可否」記入欄を設ける。

(イ) 講義（コンピュータ実習室）「インターネット関連法とトラブル対応」（40分）

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名（研究指導主事）

○ ねらい

インターネット利用に関連する法令やトラブル対応の方法を理解し、実際に問題生じた場合に、速やかに関係機関と連携して対応できるようにする。

○ 内 容

インターネット利用に関わる法律について紹介する。インターネット上の書き込みの削除依頼の方法と注意点、関係機関との連携の取り方、また相談窓口について紹介する。

○ 実施上の留意事項

- ・特に子どもたちが過ちを犯す可能性の高い、「不正アクセス」や「出会い系サイトへの書き込み」また「誹謗中傷」や「著作権侵害」などに関わる法律の理解は重要である。
- ・教員が理解するだけでなく、児童生徒への指導の重要性も併せて伝える。
- ・教員がもっている知識だけで判断し、行動することは危険であり、必ず管理職を含めたチームで対応することを伝える。

(ウ) 講義 (コンピュータ実習室) 「学校と家庭の連携」 (30分)

○ 講 師

総合教育センター研究指導主事
運営補助 1名 (研究指導主事)

○ ねらい

学校と家庭が連携して子どもたちの情報モラル指導ができるようにする。

○ 内 容

子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルへの対応と、予防、また適切な情報機器やインターネットの利用を図る上で、家庭の協力が重要であることを伝える。保護者の理解を得るためにどのような点について伝える必要があるか、実際にセンター所員が保護者向けに行ったプレゼンテーションを例に学ぶ。

○ 実施上の留意事項

- ・事例を基に、なぜ子どもたちがそのような状況になったのかを、具体的に伝えること。
- ・ただし、自校の児童生徒であることが推測されるような事例は利用しないことを確実に伝える。

Ⅲ 連携による研修についての考察

愛知県総合教育センターでは、平成22年度より県内の大学と当センターの研究をより深化させ、また研修や教育を高度化させるため、「愛知県総合教育センター・大学連携協議会」を設置し、協議を重ねることで相互理解を深め、連携事業の促進を図っている。当研修モデルカリキュラムの開発において連携した金城学院大学とは平成25年2月23日に正式に連携協力に関する協定を結んだ。大学での連携協力の担当を依頼した国際情報学科の長谷川元洋教授には10年以上にわたって「情報化推進研修」の講師や「児童生徒の情報モラルの指導法に関する調査研究」の顧問として子どもたちの情報モラルの向上について指導・助言をいただいている。当研修モデルカリキュラムの開発のための連携により、国際情報学部として、更には金城学院大学として事業連携をしていただいたことで、インターネット利用に伴う危険性などの具体的な事例についての学生の声をワークショップの事例作成の参考にしたり、試行研修受講者が日常と異なる落ち着いた環境で研修を受け、講演を聴いたりすることができた。また、長谷川教授には、教員の研修やインターネットに関わる諸問題に対応するための情報モラル教育の在り方など、大学で長年研究されてきた成果について情報提供をしていただいた。

大学との連携により、大学が取り組む研究の幅広いフィールドワークから得られる新たな知見や専門的な視点からの助言により、基礎・基本から高度な内容まで幅広く研修を組むことができ、研修の質を保証することにつながった。

また、大学にとっても、当センターの研修の運営に参画することで、受講者の校内研修の実践や児童生徒への授業実践などを直接観察し、多くの教員の生の声を聴くことで、様々なデータを収集することができ、大学における研究を深めることにつながった。さらに、教育現場で求められていることを教員養成系の学生に伝えることができるなど、相互に有意義な事業であった。

なお、当センターでは、次年度から新たな研修講座を立ち上げ、今回提案した「情報モラル指導者養成のための教員研修モデルカリキュラム」を基に「情報モラル指導者養成」に取り組む。対象校種も県立学校から小中学校まで拡大し、情報モラル指導を支援していく。金城学院大学の長谷川元洋教授には、研修カリキュラムのうち、各学校における校内研修の参観指導や、情報モラルに関する新たなeラーニング教材の制作を行っていただく。また、全県規模の情報モラルに関する児童生徒アンケートの実施及び分析に関しても指導をいただいております。今後も連携を継続、拡大させていく。

IV その他

[キーワード] 情報モラル、指導者養成、ワークショップ、校内研修、同僚性

[人数規模] D. 51名以上

補足事項1：試行研修においては、受講者が講師を務めて所属校で実施した校内研修参加者
1, 342名
試行研修受講者 40名

補足事項2：モデルカリキュラムでは1講座30名以下を推奨

[研修日数(回数)] C. 4～10日

補足事項1：試行研修では4日実施

補足事項2：モデルカリキュラムでは3日を想定

【問い合わせ先】愛知県総合教育センター 情報教育部情報システム研究室
〒470-0151 愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾68
TEL(0561)38-2211(代表)

モデルカリキュラム関連情報は下記のウェブページに掲載
愛知エースネット「情報モラル教育のすすめ」(愛知県総合教育センター)
URL：http://www.aichi-c.ed.jp/contents/j_moral/index.html